

Dahlberg先生の講演に 学び考える日本の保育



秋田喜代美
(東京大学大学院教育学研究科)

1 「質」をめぐる支配的言説を問う視点

現在支配的な語り

- 幼児教育への投資効果と報酬という教育経済学的視点、
- 数量指標、スケールによる測定という一元的可視化、分類、説明に対抗する言説
- グローバル化の中での一つの方向性言説

質を越える語り 歴史的歩み

- 多様性、複雑性、文脈の重要性
- 出会い、連帯を形成する関係の中で地域の人の声を聴き実践を生み出す言説
- 支える哲学
民主的实践、出会いの哲学
市民としての子ども、保育者、保護者

教育改革2つの方向性 (Moss, 2008)

Market-oriented model

Individual choice
Cost-benefit efficiency
Quality control
Management/control/
Check and Improve
Single ideal model of reform

Top-down reform
Factory model



Democratic Experimentalism model

Dialogue, citizenship
participation
Meaning-making
Autonomous
Collective choice and
Decision making
Multiple model of
local reform

Bottom-up reform

日本で現在支配的な言説

Dominant 幼児教育の無償化か待機児童対策か

—投資とその効果が先にありきの議論

—都市に集中

—ネットでの親の権利主張の声、託児サービスの質

—女性労働者の経済市場進出と託児スペース

—質か量かの二項対立

Invisible 保育者、子ども、住民の声

子どもたちに必要な未来のための教育のあり方

—地域の文化や文脈はどのようなコミュニティ、公共空間をこれから必要とするのか

—親としての責任（願う子育て、その価値や意味）

—市民としての親のコミュニティ参画の責任の視点の欠落

—保育への思想哲学、歩みの歴史

- 1 ダールベリ先生にうかがってみたいこと
スウェーデン スtockホルムプロジェクト
働く親は子育てへの参画意識をどのように
培っていくのか,
社会の子育てと仕事の両立への意識

2 レッジョ・エミリアの哲学

●レッジョエミリアのSingularity 特異性 独自性
への敬意

アプローチやプログラムではないストックホルム
プロジェクト ネットワーキング

●マラグッチからのアドバイス

- ①プロジェクトは、困難なものである
- ②ペダゴジーだけでなく、組織全体で取り組み
- ③常に変化し続けよ、方法や体制に固執するな

Pedagogical documentation

- 行きつもどりつしながら、保育実践を子どもと共に振り返り構成していくものとしてとらえる。
- 共同構成者としての子ども、The Child、子どものイメージ
- 危険な取組である。抵抗としての権力関係の自覚化がなされることの必要性

日本の状況への危惧

日本での近年のドキュメンテーション流行
部分的模倣と静止したアプローチとしての取り入れ
ラベルによる教育の商品的価値
親に伝達共有する機能の強調にとどまり、記録を通じた省察、
対話、デザイン、民主的政治的空間の創出と言う機能は弱い

日本には保育者による実践記録と独自の実践開発の文化的伝統がある そこから私たちは何を学べるのだろうか
保育実践や実践記録の歴史的研究と共有
子どもを見ること、見えることを、も大事にしてきた文化。

日本における豊かさを語る言説

- 「豊かさとは、ちょっと、すこし、わずか、かすか、ほのか、こまやか、ひめやかというようなことをさやかに感ずる能力から生まれることをいう」
(野口三千三)

変化を感じる感性、信頼を生む眼差しと言葉



2 ダールベリ先生にうかがってみたいこと

幼児教育がethical、aesthetic、
political であることとは、実践において
どのようなことを意味し、いかなる言葉
を持つことを意味するのか？



3 遊びと出会いの空間

学校における授業とは異なる空間としての遊びの場は、環境、ものと子ども、子どもと子どもとの対話が中心の場として成立する。

戸外での遊びや活動が、自然との共生、社会との共生の意識を培っていく。園庭空間は共生や出会いを保証する公共空間となっているだろうか。

3 ダールベリ先生にうかがってみたいこと

Schoolizationではなく、就学前施設が
学校と対話を深めるのに必要なことは？